



# 市町村長 意見交換会

## 出席者

• 刈田智之町長（北海道湧別町）

• 瀧澤智子市長（大阪府池田市）

• 中田達彦村長（鳥取県日吉津村）

• 原崎智仁市長（福岡県福津市）

（2023年1月12日、市町村職員中央研修所にて開催）

## 定住施策や子育て支援に力を注ぐ先進首長たち

—それぞれの団体で力を入れておられる施策と人材育成上の課題についてお聞かせいただけますか。

**刈田** 北海道湧別町長の刈田です。北海道の北東部、オホーツク海側の中央部に位置し、日本で3番目に大きい湖であるサロマ湖の北側に町があります。湧別原野を中心とした肥沃な農地や山林等の自然に恵まれた町です。

湧別川下流部の肥沃な大地ではタマネギを中心とする畑作が中心で、山間と河口域においては酪農が盛んです。現在、乳牛は2万頭いて、オホーツク管内で一番の出荷額があります。また、オホーツク海とサロマ湖ではホタテガイ、カキ、サケ、マス漁の沿岸養殖を中心とする漁業が盛んです。農漁業を合わせて年間300億円程度の生産額がある第一次産業を基幹とする町で、人口約8,000人の多くがそれらの産業に従事しています。

観光面では、5月上旬から6月上旬まで7万㎡の広大な花畑に200種・70万本のチューリップが咲き誇り、多くの観光客で賑わいます。現在、国内

のチューリップでは長崎市と砺波市、湧別町と言われ、3本の指に入るとされています。

現在の課題は人口減少です。一次産業が盛んで仕事はありますが、人がいないということです。外国人労働者もいますし、近隣の町からもたくさん湧別に働きにくるのですが、夜はまた帰っていくという状況です。

そこでいま力を入れている施策が、子育て支援と教育の充実です。2022年4月から保育所と幼稚園を一つにした認定こども園を2か所でスタートさせました。120人の定員ですが、100人以上が入園し、久々に多くの子どもたちが通う活気のなかで運営しています。

また町内に中学校は3校ありますが、その全てを小中一貫の9年制義務教育学校にする予定です。1校は実施済みで、2023年4月にもう1校、2025年4月にはさらにもう1校開校させる予定です。学力向上が教育の一丁目一番地なので、子どもたちの教育環境を整えることを目的に計画を進めているところです。町内すべての学校を義務教育学校として小中一貫教育を実施というのは、全国レベルでも珍しいと文科省から言われています。

もう一つは、脱炭素と環境保全です。2万頭の



左から全国市町村国際文化研修所植松学長、湧別町長刈田氏、池田市長瀧澤氏、日吉津村長中田氏、福津市長原崎氏、市町村職員中央研修所諸戸副学長

家畜がいますから、現在、家畜糞尿を利用したバイオマス・ガスプラントの整備をしています。処理しなければ環境汚染になりますし、サロマ湖と湧別川に影響がありますから、喫緊の課題として進めています。物価高で資材費が高くなっていて財源確保が大変です。

一方、人材教育については、町の研修をはじめ、道町村会、北海道、市町村アカデミーの研修にも参加させていただいていますが、率直なところ、最近、参加に消極的な職員が多くなってきていると感じています。

職員採用については、他地域から入職する職員が多くなって地域とのつながりが希薄になってきたこともあり、2006年から地域担当スタッフ制を導入しています。町内には30自治会がありますが、5人ずつ配置し研修も兼ねながらやっています。地域課題や地域要望等も全部、そのパイプを通して行政にあげていただきますし、行政から返すときもそのスタッフを通して返しています。これはかなり浸透してきていますし、人口が減って新たな課題が出ているので、2023年からスタッフを中心に「地域活性化計画」に取り組ませようと準備しています。職員の研修にもなりますし、地域とのつながりを強め、コミュニティづくりや住民対話の面でも貢献してくれるのではないかと期待しています。

**瀧澤** 大阪府池田市長の瀧澤です。人口は約10万3,000人で、大阪府内ではコンパクトな20kmほどのまちです。阪急電車で大阪の都心部まで約20分という便利なベッドタウンであることに加え、大阪空港の所在地として、コロナ禍前はアジアからの観光客によるインバウンド効果もありました。池

田市は日清食品の創業地で「カップヌードルミュージアム」があり、年間約90万人が訪れます。阪急電鉄やダイハツ自動車も池田市が創業地ですので、「事始めのまち」というアピールをさせていただいています。

また、都心から近い割には山や川があって自然環境が豊かですので、文教都市として発展してきた歴史があります。私も2023年度からの「第7次池田市総合計画」では、「子どもを生きやすく育てやすいまち」を目指して取り組んでいます。

例えば、赤ちゃんが生まれたら、保健師が自宅を訪問して様子を聞いたり、予防接種のスケジュールをお知らせしたりと、お母さんに寄り添った支援を続ける取組みがあります。産前・産後はメンタルが不安定になりがちですから、通所や訪問などの方法でお母さんたちが休める時間を持てるようにする産後ケア事業に力を入れ、「地域全体で子どもを支えます」という思いを伝えています。それから、現在は物価が高騰して市民生活を直撃している状況ですから、給食費の無償化も2022年度の途中から始めて、子育て世代に歓迎されています。ただ、ずっと続けるとなると、恒常的に4億円ぐらい必要ですから、財源には頭を悩ませながら予算編成をしているところです。

「地域分権制度」も発足から15年以上経ちます。小学校区ごとの11地域でコミュニティ組織が立ち

#### 北海道湧別町 ◆DATA

刈田智之 町長

湧別町の概要 (2022年12月31日現在)  
面積505.74km<sup>2</sup> 人口8,096人/世帯数4,021世帯

明治期に屯田兵によって開拓された町で、豊かな自然環境を生かしたタマネギ等の畑作や酪農、サロマ湖で行われるホタテ等の養殖が盛ん。また、広大な土地でのチューリップ栽培で知られ、観光の柱となっている。「オホーツク海とサロマ湖を望むチューリップのまち」がキャッチフレーズ。



**大阪府池田市** ◆DATA  
**瀧澤智子 市長** 池田市の概要 (2022年12月31日現在)  
 面積22.14km<sup>2</sup> 人口103,074人/世帯数49,506世帯  
 古くから大阪・北摂地域の中心地として発展。現在は大阪国際空港を抱え、阪急・JR・モノレールの3つの公共交通機関にも恵まれた交通の要衝都市となっている。日清食品のインスタントラーメン誕生の地であり、ダイハツ工業が本拠を置く産業都市でもある。施政の柱に「子どもを生きやすく育てやすいまち」という目標を掲げる。



上がっていますが、そこに対して市民税の約1%を住民の皆さんに予算提案していただいています。地域にどんな事業が必要かを考えていただき、事業を市が実施するしくみです。地域の方に非常に主体的に取り組んでいただいておりますので、すごくありがたいなと思っています。

人材育成の課題ですが、時代の変化やコロナによって、生活のスタイルと住民ニーズは多様化・複雑化していますから、職員にはその動きに対応する力をつけてほしいと思っています。庁内研修では、包括提携している企業に研修していただく取組みも実施しています。夢を実現するための研修や伝える力を養う研修です。やはり、民間の方の意見やアドバイスは、気づきや学びになっていると思います。職員には主体的になってもらいたいなと思いますし、ずっと池田市で働き続けてほしいのですが、一面ではどこでも通用する人材になってもらいたいという思いもあります。

人事交流は、行政機関の国や大阪府と行っていますし、ソフトバンク等の民間企業へも派遣しています。公務労働と違う視点で世の中を見てもらい、企業の風土等を肌で感じてもらうことは、戻ってきてから庁内においてもいい刺激になっています。

あとは女性の管理職比率の是正も意識して取り組んでいく予定です。私自身も大阪府で初めての女性市長としてやらせていただいています。数値目標を掲げないといけないと思っています。女性

職員数や男性職員の育休取得率が増えていることはいいのですが、家事や育児という家庭内での仕事は、まだまだ女性に比重がかかっているようです。

そうした意味でもワーク・ライフ・バランスは徹底してほしいと職員に伝えています。自分の時間や家族との時間も大切にして、メリハリをつけた勤務をしてもらいたいですし、私自身も今、小学生と中学生の娘を育てていて、公務が終われば母親ですから、そこは切り替えながらやっています。

**中田** 日吉津村は鳥取県西部に位置する鳥取県唯一の村です。中国地方最高峰の大山を東に臨み、北は日本海、西には一級河川の日野川が流れていて、自然豊かな村です。面積は4.2km<sup>2</sup>と非常にコンパクトで、全国で4番目に小さな村になります。

基本的には農業地域ですが、そのなかにも工業のエリアには王子製紙の工場が立地していますし、国道431号線の沿線にはイオンモールがあり、商業エリアは非常に賑やかです。役場や公共施設等は、村のほぼ中央に集まっているので、村民の方たちに便利になっています。

人口は直近で3,599人ですが、「第2期地方創生総合戦略」では2060年に3,600人維持を目標にしていこうとしていますから、あと1人です。人口は増加傾向にあります。

平成20年には、日吉津村自治基本条例を制定し、「参画と協働」の村づくりを進めています。

力を入れている施策ですが、皆さんと同様に子育て支援にしっかり取り組んでいるところです。2015年度から「日吉津村版ネウボラ\*」を掲げ、一足早く取組みを開始していき、妊娠・出産から子育てへの切れ目のない支援を目指して、保健師が寄り添う形で支援を行っています。

さらに、2022年は複合型の子育て拠点施設である「ミライトひえづ」をつくりました。これは保育所と子育て支援センター、児童館、民俗資料館を複合化した施設です。これまで取り組んできた

\*フィンランドの出産・育児支援施設に倣い、すべての妊産婦や子育て期の家族にワンストップで切れ目のないサポートを提供する取組み

切れ目のない子育て支援をしっかりと前進させていく取り組みで、2022年の9月に施設を開設したところですが、すでに保護者の方たちから喜びの声を聞いているところです。

それから、教育については小学校が1校あり、コミュニティ・スクール制度を導入し、地域の人たちにも学校の運営に関わっていただきながら、地域資源等を生かしたふるさと教育の充実を図ろうとスタートさせたところです。

実は日吉津村は米子市に囲まれた自治体で、村内に中学校はありません。米子市と中学校組合をつくって、中学生は村外に自転車で通っています。そうした事情のなか、今年、中学生のサークルができて、彼らが地域の活動に参加したり夏には縁日などをして、地域イベントやボランティアをしてくれたりするようになりました。これには地域のコミュニティセンターを中心に、教育委員会もフォローしながら取り組みを進めていますが、こうした活動を通して日吉津で生まれ育った子どもたちが地元で定着していけるようになってくればと願っているところです。

人材育成上の課題についていえば、職員は正規職員が約50名です。ですから、1人の職員の事務分掌はかなり幅広いこととなります。しかし、現在は各分野の専門性も求められるようになっていきますし、新たな課題もどんどん出てきます。一方で、デスクワークの仕事が中心となり、現場に出る機会が取りづらいのが悩みです。この辺りはしっかりと自分の仕事をマネジメントしながら現場の声も聞き、それを施策に生かしていける職員を育てる必要があると思っています。

人材育成の取組みの一環として、(一財)地域活性化センターの支援もいただき、県西部の7町村合同で、若手職員がお互いに交流しながら地域の課題解決のための共同研究に取り組む「人材育成アクションプラン研修」も実施しています。

**原崎** 福岡県福津市長の原崎です。福津市は暮らしやすさが子育て世代に人気で、人口が増えているまちです。福津には歴史も伝統も農漁業もあり

ますが、古くからの地域に福岡都市圏のベッドタウンとしての要素が加わり、2町合併して2023年で19年目を迎えます。

合併直後は人口約5万5,000人からスタートして、いったん5万3,000人ぐらまで減りましたが、2012年以降は増加に転じ、現在では6万8,000人を超えました。周りの市長さんやメディア関係者からもうらやましいですねと言われますが、現在は高齢化も進みつつあるなかで、移り住んできた子育て世代の満足度をいかに維持するかが重要になっています。私は2期目で、就任から6年になるところですが、人口増に伴って学校が大規模化していたり、保育園が不足したりしていましたので、1期目の4年間は10園ほどの保育園を整備しました。今後は過大規模校解消に向けて小学校を2校、中学校を1校つくらなければならないほどです。

まちの将来像は、中長期的には部長級職員と成長戦略のストーリーを練っています。全国で毎年生まれる子どもたちは、かつての300万人から今や80万人を切っている時代です。そこで福津市が掲げたのは、少子高齢化は避けられないにしても、「急激に少子高齢化をしないまち」という将来像です。市内には古い団地もたくさんありますが、50年も経てば団地からいったんは子どもがいなくなります。そこに新たに子育て世代が移り住んでこられるまちづくりをすることを念頭に、道路の幅

#### 鳥取県日吉津村 ◆DATA

中田達彦 村長

日吉津村の概要 (2023年1月1日現在)  
面積4.2km<sup>2</sup> 人口3,599人/世帯数1,277世帯

鳥取県西部の西伯郡に位置する県内唯一の村で、全国で4番目に面積が小さい村でもある。米子市に隣接していることに加え、「日吉津版ネウボラ」と称する子育て支援策が奏功して若い世帯が転入を続けており、「第2期地方創生総合戦略」人口ビジョンでは、2060年に目標人口を3,600人と設定したが、いまや達成を目前にしている。



を広げるなどの定住政策を始めています。

そして、我がまちがその姿を実現するためにも、中長期的な企業誘致を進めたいと考えています。私どもはベッドタウンでもあります。事業者もおられますし、農漁業も盛んです。白砂青松の海が21kmもあってウミガメが産卵に來たり、サーフィンでは九州の湘南と呼ばれるエリアもあります。お洒落なカフェスポットが海沿いにあり、ヨットハーバーもあります。これらの産業・観光資源をしっかりと生かし、ふるさと納税の返礼品開発等にも生かして、市税だけに頼らないまちづくりが必要だと思います。私は市長となると同時に、「SDGs未来都市」に名乗りをあげ、2019年に内閣府より選定されました。必ずや民間や大学等の連携の話が進むだろうと期待してのことです。

人材育成の面では、2022年度「人材育成基本方針」を改正しました。課長級以上を管理職と定めていますが、特に部長には部のマネジャーとしての役割と市の経営陣としての役割を与えています。具体的には、いかに民間と連携していくかという課題に取り組んでもらっています。課長も単なる所属長ではなく、課の業務を回しながら部長と連携して施策実現を図るような運営を期待しています。その考え方を人事評価制度にも反映できるようにしました。

市の人口は増えていますから、市職員1人あた

りの市民の数もどんどん増えています。一昨年から職員採用数も増やしていますが、それでも間に合わないぐらい業務量は増えています。新しい市民の方が増えて、ライフスタイルや家族観等も多様化していますから、自治体職員に求められるのはその多様化に対応できる職員です。だからこそ経営感覚を持った職員が必要なので、研修にはどんどん行かせたいと思います。

かつて合併した直後は、県や国をはじめ、博報堂や電通、トヨタ等に職員を派遣していましたが、今は派遣できていません。福津市も含まれる福岡都市圏はおしなべて職員削減目標のハードルを高く設定しています。これからはマーケティングやプロモーションが必要なので、また民間企業に派遣して勉強させようと思いますし、市町村アカデミーや国際文化アカデミーが提供する研修プログラムにも積極的に参加させたいと思っています。

## 新たな課題に向き合う専門性獲得に向けた研修を

——続けて、私どもの研修に対して期待・要望があれば、お聞かせいただけますか。

原崎 研修内容は素晴らしいプログラムで、今後も期待したいと思います。本日の管理職や首長の研修でも素晴らしい講師の方に来ていただいていますし、テーマが少子高齢化や自治体DXなどの時宜を得たご講演をいただいた後に、首長が集まった場合はその内容について意見交換をして、市長会や町村会の要望につなげていくこともできます。

毎年の地方財政計画等の定例的な解説に加え、そのときどきのトピックで講演をプログラムされていると思いますが、今後、少子高齢化でさらに大変な時代がやってくると思います。こういう大きなテーマに対して、首長セミナーでも毎年1回のを2回か3回に広げて連続講座を開講していただいたり、大学の先生の専門的なお話を聞いて理解を深めて共通認識が高まったりすれば、国に対する要望活動の質も高めることができると思います。

市町村アカデミーでぜひそうした調査研究や提

**福岡県福津市** ◆DATA

**原崎智仁 市長**

福津市の概要 (2022年12月31日現在)  
面積52.76km<sup>2</sup> 人口68,462人/世帯数29,631世帯

2005年1月に旧福岡町と旧津屋崎町が合併して誕生。福津の名称には幸福や多くの人が集まる津(港・場所)という意味が込められている。農漁業が盛んであるとともに、全長21kmの海岸線を有する自然豊かな都市であり、北九州市と福岡市に近接していることから、ベッドタウンとして人口が増加を続けている。



言につながるテーマをより意識してご準備いただければと思います。

**中田** いろいろな基礎・専門研修をバランスよく、幅広くやっただいただいていると思っています。ただ、デジタル化等の新たな分野の課題もありますし、職員もついていけないといけませんから、そうした専門的な研修もやっていただきたいです。また、マネジメントは管理職も含めてしっかり学びたいので、その分野の研修も引続きお願いしたいところです。

集合研修については、他の自治体職員さんたちと意見交換することで大きな刺激を受けますから非常に有益です。状況が許す限り実施していただきたいし、我々も派遣をしたいと思っています。日常業務は非常に多忙感があるなかでデスクワークが増えている現状ですが、小さい村のなかで「顔の見える関係」を大切にしながら地域の皆さんの声を聞いて行政をやっていきたいと思っています。

また、我々は定年延長の話にも対応しつつ、計画的な職員採用を行わないといけません。研修で聞く先輩の声や様々な分野で活躍しておられる講師のお話を、若い職員たちはしっかりと吸収してほしいと思います。普段の業務では体験できないような、刺激と感動が得られる研修内容も検討していただければと思います。

**瀧澤** 私は民間から議員になって2年半で市長になりました。ですから、行政の経験はまだ短く、皆さんに教えていただくことばかりです。議員のときは国際文化アカデミーに行かせていただいて、財務指標の見方や議員の心構えなどの初歩的なところから教えていただきました。

市長になってからは、アウトプットを求められるので、インプットの機会はほとんどなくなりました。ですから、こういう機会に徹底的に知識を入れていただくのは、すごくありがたいです。また時代は常に変化しているので、例えばDXなども役所に専門的な人材はいないので、専門家の話はすごく勉強になります。実際にDXを進めるにあたって、住民サービスの向上と職員の負担軽減

が目的なので、その目的を達成する手段を学ぶという強い思いは持ち続けたいと思っています。

市役所には慣習や前例を踏襲しがちという文化があるので、他の首長さん方のお話や外部の方との交流は大事です。視点を変えることで視界が広がるメリットを感じます。予算編成にしても、例年こうでしたと説明をされることがありますが、それは継続の理由にはなりません。そういう部分も含めてセミナーや研修の場で業務を見つめ直すことは必要だと思います。

**刈田** 池田市長さんのお話のとおり、役場には前例踏襲の文化があります。私も町長になってから職員に対して、前例は参考に過ぎないので自分で考えようとずっと言っています。行政の常識と世間の常識は違うことも口を酸っぱくして言っているところです。

さきほど、しばらくぶりに研修資料を見せていただきましたが、さまざまな研修メニューができていました。DXなど時代に合った研修が増えていると思いますが、自治体の規模によって必要性も導入方法も違うと思いますから、そこはうまく切り分けたなかでやっていただければと思います。今、基本的に基幹システムの全国的な統一化が進められていますが、話を聞いていると、必ずしもそうとはいえない話も聞こえてきますので、職員がうまく選択できる研修をしていただければと考えています。

うちは8,000人の町で、保健師が12名います。一般的な行政分野の知識はすでに自前の研修でクリアされていますから、そうした現場で必要とされる専門分野の研修をお願いしたいです。もう一つは、これから学校の部活動が地域移行されますので、それに合わせて、地域でどういうやり方をしていけばいいのか、対応できる人材をどう育成していけばいいのかに関する研修もお願いしたいと思っています。

また最近心は病む職員が多いので、その回復を図ったり、未然に防ぐ研修等もあればいいと思います。

——ありがとうございました。